

自然教室だよ

山本 美智子

11月・秋の奈良公園、 紅葉をたずねて

★平成29年11月27日(月)

★行基像前午前10時

★参加者10人

池田信明さんと千載輝重さんにガイドをお願いし、公園の樹木を中心に世界遺産の歴史的な雑学も含め広い範囲の観察会として、大仏殿拝観、県庁屋上展望のオプション付の開催となりました。

午前中は興福寺、博物館付近、春日大社参道、水谷橋、春日野園地、(昼食)の行程。出発早々に「東向き」と言う商店街の奇妙な名前のついた由来を聴く。親愛幼稚園は教会の幼稚園なのに建物はお寺。お寺なのに屋根には十字架という不思議な幼稚園。その理由についての説明を聴く。幼稚園の庭のウコンザクラとクロガネモチを眺めながら興福寺へと向かう。不比等の御廟「北円堂」前のクロマツを見上げ、ヤドリギのマツグミを観察。「南円堂」前の「右近のタチバナ」には金色の小さなミカン(果実)が鈴生り。人の手の届く範囲にはほんの少々。(犯人は人か、鹿かと、)。)

「左近のフジ」にはビロードの短毛をまとった20cm位の豆果がたくさんぶら下がっていた。

博物館へと、イヌマキ、楸(キササゲ)の横を過ぎ、サイカチの古木へ。朽ちて倒れそうな木の強い生命力に驚嘆する。

春日大社参道に出るとムクロジの木の洞から3本の孟宗竹が突き出て繁っているのに出会う。(この不思議は?)。



スタジイ、イチイガシ、アキニレの木肌を手で触りながら水谷橋へ。モミジ、カエデの素晴らしい

紅葉だ。今日のメインテーマを学習するが種類の多さに混乱する。

ヤブムラサキの紫の実が目立つ。マメヅタ、ノキシノブ、ビロードシダ。モミジの木に寄生しているオオバヤドリギを眼前で観察。近くで見ることができて感激。今日は、ヤドリギの2種類に出会えた。



オオバヤドリギ



マツグミ

午後は、手向山、二月堂、大湯屋、鐘楼、大仏殿、県庁屋上へ。手向山では木漏れ日を通しての紅葉の美しさにうっとり。修二会のお話を聞きながら二月堂でお茶を一服。

ノリコボシ、良弁杉、ナギ、ナンキンハゼ、ハガキの木(タラヨウ)、ザクロと鬼子母神。大湯屋前のマルバヤナギの柳絮(リュウジョ)が5月に雪のように舞うという。枝垂れイチョウの落葉が足裏に心地よく、シャシャンボの黒い小さな実の甘酸っぱさを味わいながら、ヤマコウバシの葉の「借金返済」の昔話を聞く。



大きなルリセンチコガネ

大仏殿は千載さんの配慮で無料拝観。久しぶりに大仏にお目文字。いつもながらこの巨大さには圧倒される。再建造を重ねた財力と人々の辛苦、金色の大仏を目にした当時の人々へと思いを馳せ、押上、雲井坂の道を経て県庁屋上へ。晩秋の名残りの奈良市街地360度の展望を楽しみ、なごやかで、和気藹々とすすんだ観察会を無事終了。

快晴の穏やかな冬日和の中、真面目で、詳しく、丁寧な池田さん。ユニークでユーモア交えた話題豊富な千載さん。お二人の巧みで、達者な楽しいガイドに感謝と敬意を拍手にこめて、散会。

皆さま、ありがとうございました。